

令和2年度 第2回 環境基本計画評価検討部会

日 時 令和2年10月26日（月） 午後15時15分～16時30分
場 所 京都市役所分庁舎第5会議室
出席者 綾野委員，大久保委員※，大島委員※，尾崎委員，○小幡部会長※
欠席者 千葉委員，西岡委員，桜井委員

（※＝オンライン参加，五十音順）

1. 開会

・横山環境企画部長 挨拶

2. 議題

（1）「京都市環境基本計画（2016～2025）」の中間見直し（案）について

・資料1-1，資料1-2及び資料1-3に基づき事務局から説明

小幡部会長 前回議論した内容を基に概ね修正されているが，問題点などがあれば御発言ください。

大島委員 これまでの議論をととも丁寧反映してあり，内容が分かりやすくなった。資料1-1のP4の③新型コロナウイルス感染症の2段落目は重要な文章である。その4行目に「観光と環境対策」とあり，観光要素が強くなっていると感じる。新型コロナウイルスの影響は，観光に限らず，市民の生活や働き方にも影響を与えているので，市民の行動そのものに単語だけでも言及しておく，P9のコラムに繋がりがやすくなり，生きてくるのではないかと。

また，P9のコラムの最終行から2行目に「テレワークやウェブ会議システムを…積極的に活用することが期待されます」とあるが，事業者テレワークをしましよと呼びかけるだけでなく，市民自らが気づいたことを行動に移していただくよう呼びかける文章にするとより良いのではないかと。

小幡部会長 P4については，新型コロナウイルスの影響を観光に限定せず，生活，働き方といった日常生活にも，観光と並列して言及するように，という提案であったが，事務局はどう考えるか。

事務局 御意見を踏まえ，修正する。

大久保委員 P4の2段落目は「さらに」で始まり，「また」と続いており，不自然である。「また」からの文を先にし，京都市民としての大切な意識を示してから，「さらに」と観光に言及するとより良い文章になるのではな

- いか。
- 小幡部会長 「もったいない」と「しまつのこころ」の話を先にしてから、観光のこと、市民生活に係る環境対策が重要である、とまとめるようにという提案であった。
- 事務局 御提案を踏まえて、修正する。また、P 9 のコラムについても、大島委員の御意見を参考に修正案を検討する。
- 大久保委員 効果的な写真を追加することで、イメージが伝わりやすくなった。全体として良いと思う。
- 小幡部会長 P 1 6 のコラム内容は、SDG s の目標 1 6 を説明するものになっているか。
- 大久保委員 一般的には政策参加といった類いのものを指すが、環境分野における取組の中で一番該当しそうなものを選択されたのではないか。新しさも感じられ、良いと思う。
- 綾野委員 本校では、感染症対策を取りながら、環境教育と人権教育に力を入れている。見直される環境基本計画では、新型コロナウイルス感染症対策に留意し記載されていることに有り難く思い、教育現場でしっかり活用していきたいと考えている。
- 尾崎委員 主婦の私にとっては、コラムが一番読みやすく、内容が多岐に渡る本文は難しいと感じるところもあった。
- 小幡部会長 コラムについて、これまで出た意見を検討され、よく反映されている内容だと思う。P 4 と P 9 の修正を事務局にお願いし、議題 1 の議論を終わり、2 つめの議題に移りたい。

(2) 「京都市環境基本計画 年次報告書 環境レポート (案) ～令和元年度事業実績～」 について

- ・資料 2 - 1, 資料 2 - 2 及び資料 2 - 3 に基づき事務局から説明

- 小幡部会長 環境保全への関心の高さが、環境に対する意識や意欲を高める結果となっており、関心がない層にどのように啓発・教育するかが鍵になっていると感じている。
- 大久保委員 全体的に面白いデータが出ている。
まず、P 1 5 の温室効果ガス排出量削減では、客観的指標は良い結果が出ており、削減の理由の一つに暖冬が挙げられているが、自然環境の変化以外で、例えば、デカップリングが進んでいるのか、ZEH の導入はどの程度進んでいるのか等、能動的に減らした分の寄与度が重要である。市独自でデータを把握することは可能なのか。

2点目、P15「歩くまち・京都」の取組の推進により、マイカー利用の減少は進んでいるが、主観的指標では「そう感じない」人が多く、相関していないとのことであった。大気汚染についても、同様の傾向が見られている。これは、車に乗っていると気付かないが、歩くようになったことで、特に未整備の歩道では、走行する車との距離が近くなり排気ガスに意識が向くようになったこと等も原因として推測される。空気が綺麗なことを周知するとあるが、歩道の整備、オープンカフェの設置等、いわゆる空間の再配分のような交通施策との連携がないと主観的評価は上がらないのではないかと。

3点目、P23の生物多様性に関して、良好な自然環境が保たれていると感じない理由に外来種による在来種の減少が1番多くなっている。今の時期だとセイタカアワダチソウの黄色い綺麗な花など、外来種は都市において非常に目立つ存在なので、外来種だとわかっている人がこれだけいるのであれば、除去などの活動に参加してもらうことで、生物多様性保全の取組が広がる可能性があると感じた。

小幡部会長

1点目の温暖化については、温室効果ガス排出量が減少していることへの分析、2点目の主観的指標向上に向けた交通施策と連携についての提案、3点目の自然環境が保たれていない理由として外来種による影響との回答が多い背景、それぞれ把握できている範囲で、事務局に聞きたい。

事務局

1点目の温室効果ガスについては、産業部門、運輸部門、家庭部門、業務部門といった部門別の増減は把握しており、家庭部門の排出量が減っていることから、暖冬の傾向があるためと判断したが、大久保委員の言われた詳細分析は、今後の検討課題と考えている。

2点目、交通施策との連携について、本市の交通戦略は、すべての分野において横断的に取り組むものであるため、頂いた御意見を踏まえて、こういった取組を行えば市民意識の向上につながるのか、検討したい。3点目の外来種については、なぜそう思うかというところまではアンケート調査を行えていないため分からないが、おそらく最近、新聞等マスメディアにより、外来種により在来種が減少していることが報じられていることから、推測にはなるが、そういった情報に接した方が多かったのではないかと考えている。

小幡部会長

温室効果ガスについて、エネルギー起源別の排出量は、P11の表4.1では分かりづらいため、グラフにすると傾向が読み取りやすくなり、参考にしやすくなるのではないかと。来年度以降、検討して貰いたい。

事務局

頂いた意見を踏まえて、記載内容を検討する。

- 大久保委員 自動車分担率の低下が示すとおり、外を歩くようになったことにより、まちのごみが目立ったり河川の汚れが気になったりしたのであれば、ある意味それを利用することで、環境保全の行動へと結び付けられるのではないかと考えた。
- 大島委員 レポートの内容は、具体的な取組状況とアンケート調査結果の両方が掲載されており、これで十分と考えている。
資料2-3の前年度との比較を興味深く拝見しているが、前年比較だけだと、ちょっとした数値のブレなのか、経年的に変化してきているのか把握できないので、長期的な変化が知れたらなお良い。
P4のQ11「空気や河川の水がきれいに保たれていると感じるか」の結果に関して、鴨川や最近では有栖川など、清掃活動を熱心にされている河川もあるので、この結果を見たらがっかりされるのではないかと。例えば行政区毎に調査されていればどの河川を想定して回答したものなのかという分析は行えると思うが、そのような分析は可能か。
- 事務局 行政区別のアンケート結果もあるため、この項目については、行政区別での分析を行う。
- 大島委員 ぜひお願いしたい。清掃活動を行っている方の中には、これを見て勇気づけられる方もいらっしゃると思う。
- 小幡部会長 環境や環境保全に関心のある人ほど空気や河川の水がきれいに保たれていると感じており、全く関心のない人はきれいに保たれていると感じる人が少ないことから、やはり環境教育やPRが重要であると感じている。
- 大島委員 回答の際に、身近に川のある人は例えば鴨川や二級河川を思い浮かべると思うが、身近に川の無い人は漠然としたイメージで回答する場合もあると思うので、地域による分析が必要と感じている。
- 小幡部会長 昨年もこの指摘があったように記憶している。事務局には対応をお願いしたい。
- 綾野委員 学校教育でどのように活かせるかという視点でレポートを読ませていただいた。子どもたちは今年の6月まで家庭での自粛休業を経験したことから省エネと環境とを結び付けて考えられるのではないかと思う。また、京都市の学校給食では地産地消を大事にしており、これを切り口して、子どもたちへ環境の視点を投げかけていきたい。レポートに使われている指標を、子どもたちにアンケートを取る際の参考としたい。
以前から、修学旅行にマイバッグを持参し、お土産を購入する学校はあったが、今年から全校で実施しており、ライフスタイルが変わっていく

- ことを実感している。
- 小幡部会長 レポートの概要版が完成すれば、副読本として教材に使っていただければと思う。
- 尾崎委員 環境に全く関心がなくアンケートにすら協力しない人達が多くおり、そのような人達の意見は、この結果に反映されていない。
- 女性会の中でも、活動的な人は、3キリ運動など、環境の勉強会に参加しているが、そうでない人、自治会に入っていないという方に対しては、そのような機会があることをお知らせすること自体が大変難しく、環境についての意識の差が広がっていくと感じている。
- 小幡部会長 興味のない人たちにどのように働きかけるかは難しい課題である。京都市や学校教育現場での工夫はどのようなものがあるか。
- 事務局 関心の全くない方へのアプローチは非常に重要であり、小幡部会長の御指摘のとおり、環境教育も重要であると考えている。そのため、小中学校はもちろんのこと、幼児向けの自然体験会などを通じて、もっと幼いころから環境問題への意識を根付かせることが大切であり、本人だけでなく、先生や保護者への影響もあるのではないかと考えている。
- 小幡部会長 綾野委員、小学校での取組はいかがか。
- 綾野委員 本校では長年環境教育に取り組んでおり、以前京都でCOP3が行われた際、前日のジュニアCOP3で本校の取組を紹介した。その後も継続して取り組んでおり、本校の子ども達の意識はかなり高いと感じている。しかし、各校の取組状況によって、意識のばらつきはあるため、さすてな京都及びエコロジーセンターでの学習、エコライフチャレンジ等の京都市の取組を活用することで、京都市内の子ども達の環境に対する意識を高めていきたいと考えている。
- 学校現場としては、子どもへの環境教育が重要であり、今後も環境意識が根付く人材育成を心掛けていく必要があると改めて強く感じた。
- 大島委員 環境に限らず、防災活動、地域活動も全く同じで、関心層が二極化している。人間は社会的な生きものなので、周りの人や地球環境との関りの中で生きているけれども、それを意識せずとも生活が成り立ってしまうため、100%の参加というのは難しいと思う。そのような中、一番分かりやすいのは防災ではないかと感じている。自らが備えておかないと命に関わることなので、ネガティブな動機かもしれないが関心を持ってもらえる。
- でも、できれば些細なことでも良いのでポジティブな動機の方が良く、金銭的なこと以外に、例えば行動することで近所同士が仲良くなれるといったことをきっかけとして、興味を持ってもらえたら良いと思う。

特効薬はなく、メリットをこつこつと発信していき、行動するきっかけを作っていくことが大切と考える。

以前は、スーパーでエコバッグを持っていけばポイントが溜まるといった取組があった。商店街やスーパーなど、身近で日常的に利用する施設と連携することで環境に関する情報に触れるきっかけを作ることができるのではないか。

小幡部会長
事務局

環境通貨や地域通貨の導入は考えているのか。

様々な御意見を頂き感謝している。

環境通貨や地域通貨の導入は考えていなかったが、委員の皆様の御指摘のとおり、全くの無関心層にどのようにアプローチするかということが課題と考えている。

まずは市民の皆様と直接顔を合わせ、関係を築き、その中で本市の環境施策を御理解いただくことが大切と考え、この10月から、資源物の移動式拠点回収の頻度を、以前の2年1回から年4回に引き上げ、市の職員が公園等に赴いて資源物の回収をしながら普及啓発をする取組を始めている。

また、環境分野の3つの計画を改定し、来年度から施行するが、前提として、市民の皆様に分事として取り組んでいただかなければ計画は進まないで、こういったアプローチ方法があるか、引き続き委員の皆様からも御意見を頂きたいと思う。

小幡部会長

2050年に二酸化炭素の排出量をゼロにするというのは、未来のことであり、あまり実感が持てないと思う。一方で、豪雨や台風等の事象は身近なものであり、実感も湧くので、防災という観点で普及啓発を行うのが良いかもしれない。

研究室に以前在籍した学生が、高校生に対して小学生の頃に受けた環境教育の影響を調査したことがあるが、小学校での教育は原点として残っており、何かのきっかけで思い出すという結果だった。子どもへの教育は、やはり重要である。

大島委員

来年の4月から、新築建築物の再エネ設備の設置義務付けについて、現在の対象よりも更に小規模な建築物においても、適用される予定となっている。このように、市民活動を直接義務付けることはできないが、それをとりまく生活に関連する事柄で、規制できるものは法律や条例で義務付けることができるので、意識付けの方法の1つとして留意されたい。

小幡部会長

本日議論された意見について、中間見直しについては、一部修正を行い、環境レポートについては、今後の課題とされたい。

事務局

本日頂いた意見を踏まえ、中間見直し案については、部会長と事務局で修正を行い、来月開催される環境審議会で報告する。環境レポートについても、内容を部会長に相談のうえ、ホームページ上で公開する。

3. 閉会